

# 子供の未来を紡ぐ 体験プロジェクト

チーム名：琉大ゆいまーる

人文社会学部      4年   比嘉恒晴

国際地域創造学部   3年   佐渡山諒

2年   菅原結・知念佳奈



# 目次

---

プロジェクト概要

---

これまでの活動

---

本プロジェクトの成果

---

今後の活動予定

---

まとめ

# プロジェクト概要

- ▶ 県内の子どもたちの居場所を対象とした地元企業の**職業体験イベント**を実施し、子供たちが、社会・経済の仕組みや働くことに対する理解を深め、学習意欲や就業意欲を向上させる機会を創出する。

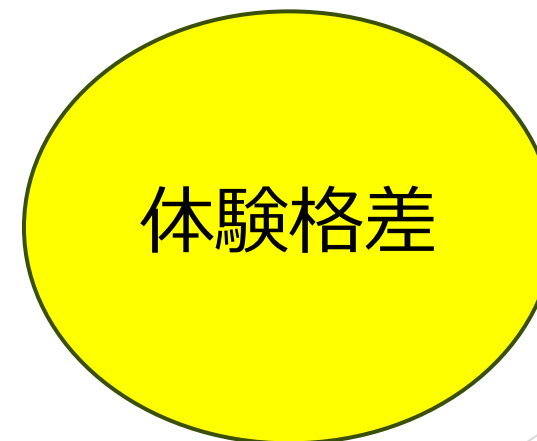
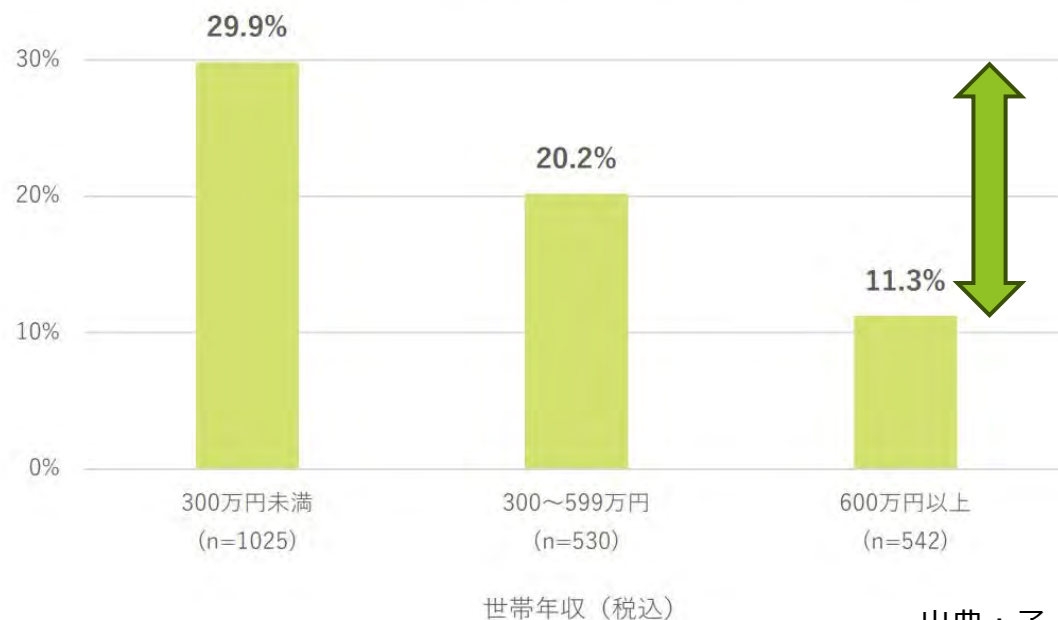
取り組むべき地域課題

沖縄県の子どもの体験格差

# 取り組むべき地域課題

昨今の調査によると、世帯年収300万円未満の家庭の子ども**約3人に1人**が、1年を通じて「学校外の体験活動を何もしていない」と回答しており、世帯年収600万円以上の家庭との差が大きい。

学校外の体験がない子どもの割合（直近1年間）



# 取り組むべき地域課題

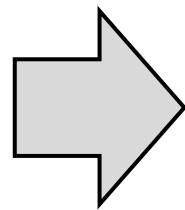
体験格差の解消のためには、子供たちが多様な体験活動に触れる機会を増やす取り組みが必要である。

## 単発の体験活動

自然体験  
社会体験  
文化的体験

## 定期的な体験活動

スポーツ・運動  
文化芸術活動



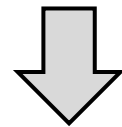
個性・強みの発見  
自信・意欲の育み  
学力の土台づくり

**→将来に与える影響は大きい**

# 取り組むべき地域課題

## 沖縄県の現状の考察

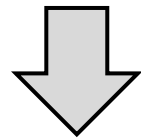
- ▶ 沖縄は他地域に比べて県民所得が低く、相対的貧困率は**約3割**
- ▶ 沖縄県の貧困に関する指標は従来から全国ワースト  
(高等学校・大学等進学率、高校卒業後の就職率、完全失業率等)
- ▶ 核家族化や地域コミュニティの衰退
- ▶ 教員の多忙化による課外活動の減少



沖縄県内の体験格差も大きいことが考えられる

# 取り組むべき地域課題

- ▶ 子供たちの進路選択の幅を広げることに直接的にアプローチしたい
- ▶ 地域に長期的な効果をもたらしたい



様々な体験活動の中でも「社会体験」に着目



# オリジナリティ

- ▶ 子供の居場所を利用している小中学生を対象とする
- ▶ 子供たちが地域の大人と関わることができる
- ▶ 学生が子供の居場所について知る機会を作る

# プロジェクト実施計画・スケジュール

7月～8月

沖縄の体験格差  
に関する調査・  
情報収集



9月～12月

イベント準備・  
ボランティア  
募集

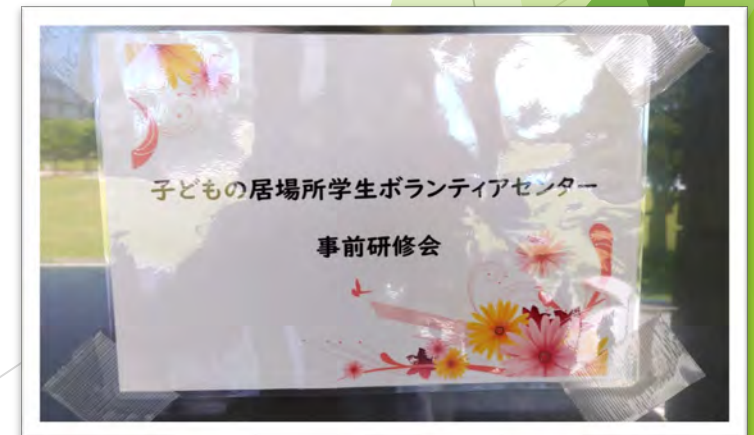


12月～2月

イベント開催・  
アンケート実施

# これまでの活動（調査・情報収集）

- ◆ 児童福祉等を研究している人文社会学部の本村真先生への相談（6/29@zoom）
  - ・ 事前調査や情報収集の具体的な方法、県内の子供の居場所の先進事例等を知り、今後のプロジェクトの流れについて様々なアドバイスを頂いた。
- ◆ 「子どもの居場所学生ボランティアセンター」の事前研修会への参加  
(7/9 @琉球大学)
  - ・ 県内の子どもの貧困の現状とその背景や、子どもの居場所に通う様々な子供たちの特性等を学び、地域課題に対する理解を深めることができた。



# これまでの活動（調査・情報収集）

## ◆ 「子どもと地域をつなぐサポートセンター系」へのヒアリング

（8/24 @那覇市社会福祉協議会）

- ・ 県内の子どもの居場所の実情や課題（運営資金の不足や継続的なボランティアの不足等）を学び、本プロジェクトのイベント企画・開催に関して細かいアドバイスを頂いた。

## ◆ 浦添市の子どもの居場所でヒアリング・ボランティア（9/21@陽迎橋自治会事務所）

- ・ 自治会長より、コロナ禍以前から子どもたちの体験格差があったことを伺った。

- ・ 浦添市の小中学校では、今年度から文部科学省が提唱する「コミュニティ・スクール」（学校・保護者・地域自治会・地域企業が連携を図り地域の子どもたちを育てる取り組み）を実施していることを知った。

- ・ ボランティアをしながら子どもたちの興味関心や特性を知ることができた。（約1年前から同所でボランティアをしているメンバーもいる）

# これまでの活動 (先行イベントの視察)

## ◆ 子供の居場所サマーフェスタ

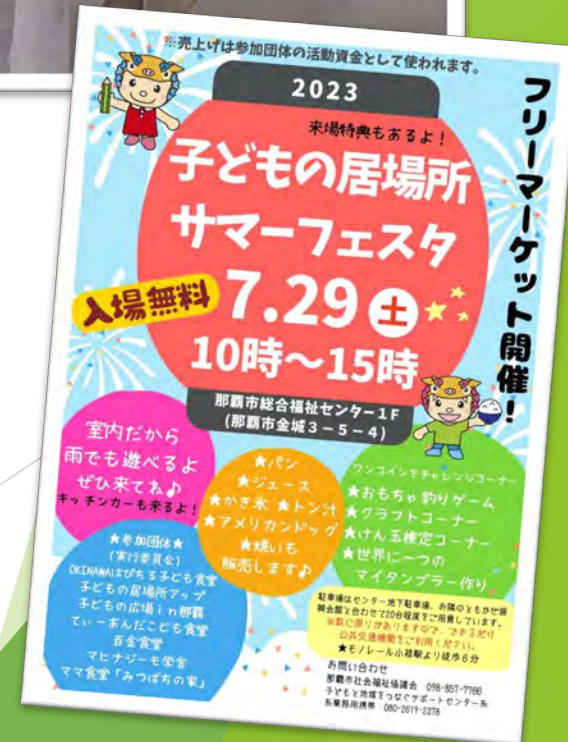
(7/29 @那覇市社会福祉協議会)

・本プロジェクトのイベントで企画している買い物体験のヒントになった。(販売品、スタンプラリー等)

## ◆ 森の子児童センター開催イベント

(8/17 @森の子児童センター)

・ちゅらプロの他のグループ「うりずんスクール」が開催するイベントを見学し、体験活動の実践方法や子供に発表をしてもらう際の工夫を学んだ。



# これまでの活動 (先行イベントの視察)

## ◆ 第2回沖縄こどもみらいお仕事体験イベント

(8/19 @沖縄コンベンションセンター)

・お仕事体験のイメージを具体化でき、小学生に人気のあるお仕事を知ることができたので、イベント企画のヒントになった。

## ◆ みやぎっ子メリータウン

(8/23 @宮城っ子児童センター)

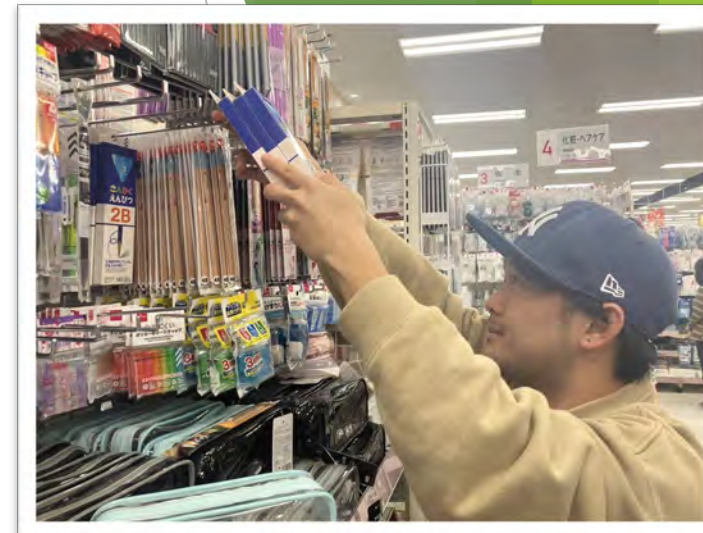
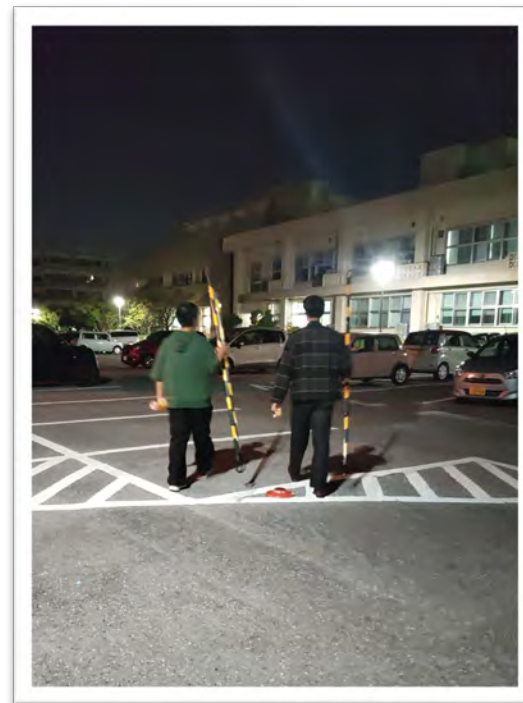
・お買い物体験に加えて税金やハローワーク等の要素を取り入れることで社会の仕組みを楽しく学ぶ工夫がされており、イベント企画のヒントになった。



# イベント準備

- ・ 企業・先生への協力依頼
- ・ 参加者・ボランティアの募集
- ・ 子供たちのニーズ把握
- ・ バスの手配
- ・ 会場準備

等



# これまでの活動

10月

イベント準備  
(関係機関との調整・備品の準備等)

11月

イベント準備  
(告知・事前アンケート等)

12月

イベント開催・振り返り・お世話になった機関へのお礼

1月~3月

最終報告書の提出・  
成果報告会



# 本プロジェクトの成果

## 「ミニおしごと体験イベントin琉大」を開催！

2023年12月9日（土） 14時～17時 琉大文系講義棟3階

### 【協力企業・団体】

株式会社イオン琉球 様

株式会社ビーンズラボ 様

I-PEX株式会社 様

中川鉄水先生（琉大）

GCCの皆様（琉大）

### 【イベント内容】

第1部（14:00~16:00）お仕事体験（3社）

第2部（16:00~17:00）GCC との交流会

参加賞プレゼント

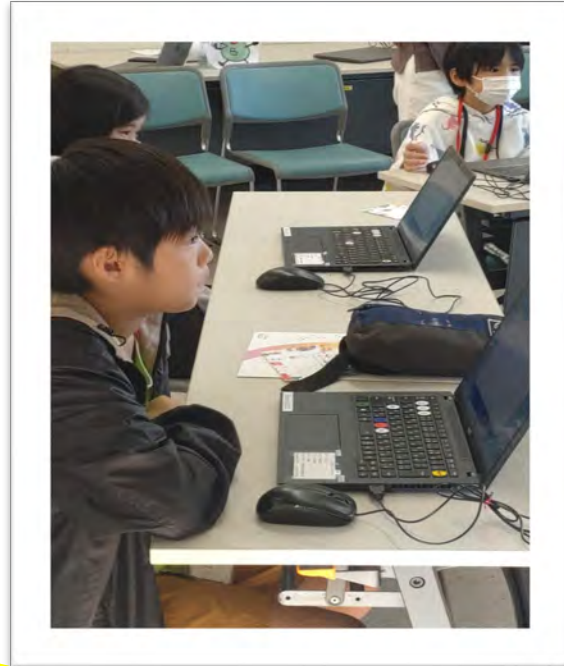
【参加児童数】 14名(小学1年生～小学6年生)

【ボランティアスタッフ】 15名

# 参加企業①：株式会社ビーンズラボ

## ○体験内容

パソコンを使ってウェブページの作成、色付け等を行った。



### 企業様の声

こども達の楽しむ様子が見れて出展できてよかったと思っております。

### 小学生の声

いろんなプログラミングをしたのしかったです。

# 参加企業②：イオン琉球株式会社

## ○体験内容

VRを使用し、食料品売り場の販売員の体験を行った。



### 企業様の声

子供たちと直接触れ合うイベントに参加させていただき、イオン琉球のお仕事を少しでも体験いただき嬉しく思います。



### 小学生の声

さかなをさばいたり、からあげをやいたりしてたいへんだったけど楽しかったです。

# 参加企業③：I-PEX株式会社、理学部・中川先生

## ○体験内容

工業製品の展示・解説、水素ロケットを用いた射的ゲームの体験を行った。



### 企業様の声

日頃行っている業務を子ども達に伝えることで、改めて我々の仕事を再確認することができました。



### 小学生の声

スマホのでんぱをつなげるきかいがわかりました。



- ・お仕事体験(30分)→休憩(10分)を3回繰り返して、参加者全員がすべて体験できるようにした。

- ・休憩時には感想を書いてもらった。



お仕事体験が終わるごとにシールを貼ってあげて、最後まで子供たちが飽きないように工夫した。

# 午後の部：GCC（グローバル・コモンズ コンシェルジュ）との交流

## ○体験内容

英単語をテーマにした伝言ゲーム、身近にある物を英語で表現するゲームを行った。

### GCC様の声

琉大の国際色豊かなところも体験してもらえたのではないかと。継続的に子供たちと関わればさらに良いと思う。

### 小学生の声

伝言ゲームが楽しかった！





# 参加者アンケート結果①

## 【プログラマー体験（株式会社ビーンズラボ）】

私は、今日ビーンズラボさんのおしえかたで、パソコンのつかいかたがよくわかりました。パソコンをにちじょうせいかつでつかっていきたいと思いました。たのしかったです。

パソコンのそうさをおしえてくれてありがとうございます。そうさ方法をしることができました。

パソコンをひさしぶりにさわったけど、上手にできて、めちゃくちゃうれしかったです。

プログラミングの事をいろいろおしえてくれてありがとうございます。いろいろ先に行った時、まちがったけどすぐやさしくおしえてくれてありがとうございます。楽しかったです。

パソコンはむずかしいとわかりました。理由は、コピーを何回もしたりしてログインができたり、ABCをうったりしてむずかしいからです。体けんでもむずかしかったから本当にパソコンを使うときは、できるのがすごいと思いました。とても楽しかったです。



## 参加者アンケート結果②

### 【VRで店員さん体験（株式会社イオン琉球）】

VRでレジの体験をしたさいにレジのそうさ方法をおしえてくださりありがとうございます。きちょうなけいけんありがとうございます。

イオンのおしごとたいけんすごくたのしかったです。からあげ作りも、さかなをさばくのも、ぜんぶたのしかったです。

てんいんの体けんで、からあげをしました。タイマーや、からあげをあげるのやアルコールをかけるのはとてもむずかしいと知りました。大人になっててんいんさんになる時は、こんなことをするんだなと知りました。とても楽しかったです。

VRが1つおわって、そのあと2つもやらせてくれてありがとうございました。ゲームかんかくでべんきょうができてとてもよかったです。楽しかったです。

イオンでは、1つのコーナーに、1人ずつお店の人がいることがわかりました。VRで体験をしてむずかしいんだなとわかりました。

## 参加者アンケート結果③

### 【ものづくり・研究者のお仕事（I-PEX株式会社・理学部 中川先生）】

水そで車をうごかせると初めて分かりました。車やスマホの部品も知れてよかったです。

私は、今日一番すいそロケットがたのしかったです。そして、スマホの中にいろいろなぶひんがみれてべんきょうになりました。ありがとうございました。

いろいろとしつもんをして、みんなこたえてくれたのでべんきょうになりました。水そロケットはとても楽しかったです。ありがとうございました。

すいそロケットですいそがあると、車が動くのでとてもすごいと思いました。おかしをねらってあてるのはむずかしかったです。これからもっとさんそのことをして、さんそを使って動く車に乗ってみたいです。とても楽しかったです。

車のぶ品や水そのロケットをやってとても楽しかったです。

# 運営スタッフアンケート結果①

## 【イベントの良かった点について】

スタンプラリーおよびお菓子の景品交換があり、子どもが飽きない工夫がされていて良いなと思いました。また、「水素での当て」が子どもたちから特に好評だったように感じます。

一つの職種だけでなく、数個の職種を体験することで、子どもたちが飽きずに、楽しめる事が出来たと思います。小学生のうちから仕事について学び体験することで、自分の向き不向きを考え、将来どんな仕事に就きたいのか、自らのキャリア形成を考える機会になったと思います。

学生という身でもあまり知らない業界・企業への知識を体験ワークという場を通して楽しみながら子どもたちに知って貰うことが出来た事。またイベント運営において企業と大学との連携が小さなハプニング等を適宜解決しながら円滑に行えており、何よりも子どもたちの笑顔を学生、企業、関係者が見れた事が何よりの収穫であったと考える。

子どもみんなが楽しそうでした。

# 運営スタッフアンケート結果②

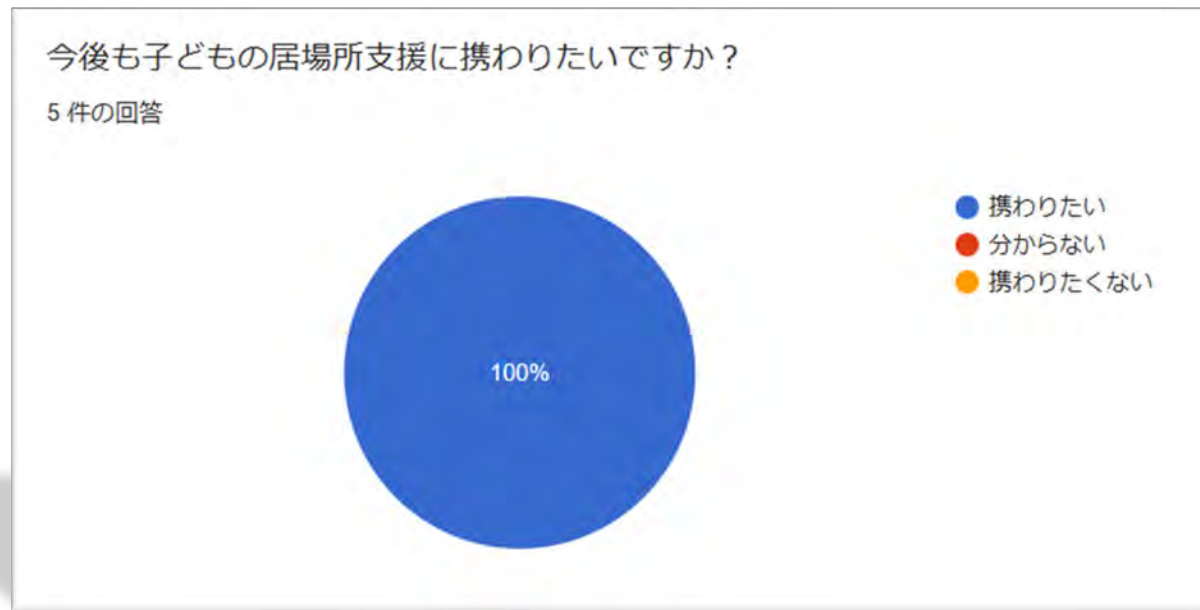
## 【反省点・改善点について】

タイムスケジュールにおいて子供たちの動きや企業との連携の部分も含めもう少し時間を取っておいた方が慌てることなくよりスムーズに進められたのではないかと思います

イベント前にスタッフの方と参加するお子さんとの間で少しでも関係性を持っていても良いと思いました。

## 運営スタッフのアンケート結果③

- ▶ イベントを通して、「今後も子どもの居場所支援に携わりたい」と答えた運営スタッフが多数(回答者5人全員)おり、子どもの居場所支援の担い手の充実が期待される。



# イベントで期待される成果

## 自分を知る

- ▶ 子供たちがイベントを通して、自分の関心のある職業をイメージできるようになる。
- ▶ 働くことに対する理解を深め、学習意欲や就業意欲を向上させる。

達成

# イベントで期待される成果

目標を持てる  
ようになる

- ▶ 職業を知り、将来沖縄の発展や課題解決に貢献する人材になりたいと思えるような場の提供をする。
- ▶ 今行う勉強が自身の将来に繋がっているという実感を持てるようになる。

達成

# イベントで期待される成果

繋がりができる

- ▶ イベントを通して、参加した児童同士の繋がりができる。
- ▶ 児童のみならず、運営のボランティアを担う方々にも繋がりができ、子供の居場所支援の担い手を強化できる。

達成



# イベントで期待される成果

## 成果指標

- ▶ イベント参加前に、対象の児童に「将来やりたい仕事はあるか」という問いのアンケートを行う。その上で、「ない」と回答した児童がイベント後のアンケートで「関心のある仕事がある」と回答する割合を30%増えることを目指す。
- ▶ 「イベントに参加して良かった」と回答する児童を80%を目指す。
- ▶ 運営ボランティアに「今後も子供の居場所支援に携わりたいか」というアンケートを行い、「携わりたい」という回答が70%になることを目指す。

達成

# 今後の活動予定

- ◆子どもの居場所へのボランティアを継続  
ボランティアを担っている学生と協力して、  
イベント等も企画していきたい
  
- ◆GCCとの交流の継続  
琉球大学との繋がりを活かして、英語を身近に  
体感できるイベントを企画していきたい

# まとめ

## 1. 子どもの職業体験への貢献

企画当初は、子どもたちが就業したい職業を描けていないと想定していた。

実際にボランティアを通して子どもに話を聞くと、既に就業したい職業を考えている子どもが多かった。

イベントの成果は、学校外での職業体験や大人との繋がり、学生との繋がりが挙げられる。

# まとめ

## 2. 私たちが学んだこと

- ◆ 私たちがこれまで体験してきたことの背景には、多くの大人のサポートがあったということ
- ◆ 開催に至るまでの自治会や子どもたちとの信頼関係の構築、企業様への連絡方法
- ◆ 社会福祉協議会や浦添市内の児童館の取り組み
- ◆ 場所や人のスケジュールを先に押さえてイベントを実施したため、その予約期間から逆算して準備期間のスケジュールを組む大変さ

これまで本プロジェクトをサポートして下さった皆様、  
本当にありがとうございました。

